親子の会話で知る、感じる

毎日の園生活と我が子の成長

担当：わたなべ

私は今、小学 5 年生と年長の息子を育てています。長男ももちろん台桜幼稚園の修了生。５学年離れているとはいえ、幼稚園生活に関する共通の話題で兄弟が盛り上がることは珍しくありません。

先日も次男が「今日から獅子舞の練習が始まったよ」と報告すると、長男はすかさず反応。「懐かしいな。中腰の姿勢が大変だったんだよね」と言いながら、兄弟並んで同じポーズを取っていました。

また昨秋には「そろそろ幼稚園で月見団子を作る時期だね」「コロナだけどできるかな？」と兄弟が話す様子も見られました。

このように、日々の体験や季節の行事の一つ一つから家族の会話が生まれています。

ほかにも、台桜幼稚園では長年続けられてきた季節の行事や取り組みがたくさんあります。そのため、降園時に「明日は親子苗植えの日です」「学校の給食を食べました」と担任の先生から聞くたび、「もうそんな時期か」と幼稚園時代の長男の姿が思い出されるのです。

こうして、次男の幼稚園生活を通して、兄弟それぞれの成長をしみじみと感じています。

7 月には小学校の先生と体験した金槌トントンが楽しかったので、自宅で兄を誘い早速釘打ちをしていました。「まっすぐ打つのがむずかしいんだよな。」「指に気をつけろよ」と心配性な兄が見守ります。

一人ひとりに配られる園生活のレポート

平成 30 年度から始められた「ラーニングストーリー」という取り組みも、子どもの成長を知る上で重要な役割を担っています。数か月に一度のペースで、子どもの様子を伝えるレポートを担任が作成し、ファイルに貯めていくものです。

幼稚園で過ごす我が子の写真と担任のコメント（写真の解説、子どもの成長や課題、今後の関わり方の方針など）が印刷されていて、保護者の感想を記入する欄も設けられています。

入園から修了まで、学年が変わっても１冊のファイルに貯まっていくので、同時期のレポートを見返して「去年の今頃よりは友達とのやりとりがスムーズになったな」と安心したり、「そんなこといつの間にできるようになったんだろう」と驚かされたり……。

台桜幼稚園は、子どもたちの日々の成長を見守る先生方の目が温かく、一人ひとりを大切にしてくれていることを保護者の一人として実感しています。

「行事のためにがんばるのではなく、日々の体験こそが行事のときに発揮できる力になる」

これは、長男がまだ園児だった頃、担任の先生に言われて印象に残っている言葉です。

できないことや初めてのことに挑戦すれば、思い通りにいかない時は必ずあります。でも、そんな悔しさに耐え、先生や友達から教わりながら、時には家庭でも励まされながら、自分なりに工夫し努力し、できることがどんどん増えていく。そうした積み重ねを経てたくましい小学生になっていくのだと、この幼稚園で学ぶことができました。

また、そんな我が子の成長を先生と喜び合える環境に感謝しています。

身体の成長と違い、心の成長は気づきにくいものです。それをできるだけ間近に感じ、見守る力をもっともっと身に付けていけたら――。

そんなことを思う私も、親として成長させてもらっているのかもしれません。